

この原稿は、2002年「ローマ・ミサ典礼書 規範版 第三版」が発行された直後に「ヴァチカンの道 第39号」（2002年12月25日発行）に発表したものです。

日本の教会では7年の歳月を経過した今日においても、「ローマ・ミサ典礼書 規範版 第三版」の一部である「ローマ・ミサ典礼書の総則」と「典礼暦年に関する一般原則および一般暦」の日本語訳が出された他は、典礼文の和訳はもとより、概要すら一般信徒に広報されていません。

7年前に書いたものではありませんが、まだ、あまり知られていないようなので、共通の用語ができたものは、それに置き換えて再発表することにします。

セピア色の箇所は2009年に加筆、修正した部分です。

MISSALE ROMANUM EDITIO TYPICA TERTIA

ローマ・ミサ典礼書 規範版 第三版 （祭壇用） 2002年 発

行について

増田 洋

「カトリック新聞」2000年8月6日号に「ローマ・ミサ典礼書の総則」が25年ぶりに改訂された件について報道されたが、このほど、この新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」に基づいて改訂された「ローマ・ミサ典礼書 三訂規範版」が今年（2002年）発行された。これは、第二ヴァチカン公会議後、1970年発行の初版、1975年発行の改訂版に次いで、27年ぶりの**第三版**である。因みに大きさもB5判1000ページからA4判1326ページとなり内容も豊富になっている。

公会議以前、全てのミサがラテン語で行われていた時代には、ローマ・ミサ典礼書に変更があれば、直ちに伝えられると共に、速やかに実践され、また、信徒に関わる部分はラテン語テキストに、多くの場合は対訳がつけられて信徒の求めやすい価格の小冊子が発売され、信徒も概要を知ることができた。しかるに、日本語によるミサが主流になってからは、その内容が日本語の儀式書として出来上がるまでは信徒にはほとんどその情報は知らされない状態が**約40年近く**以上続いている。しかも、規範版発行後、対応する日本語の儀式書が発行されるまでの時差は年を追うごとに長くなってきている。

そのような状況の中で情報を得ようと思えば、原書を見るしか方法はなく、今回、それを購入してみた。使徒座の典礼聖省は、2000年の大聖年を期に、第二ヴァチカン公会議によって刷新された典礼について、30余年にわたる全世界の試行錯誤の状況を見きわめた結果、「今世紀のローマ・ミサ典礼はどうあるべきか」の判断を下したように読み取れる。

「典礼憲章」によれば、その第10条に「典礼は、あらゆる教会活動の源泉である。」とあり、本誌読者諸兄姉には、典礼に関心をもたれる方々が多いので、その概要についてご紹介してみ

たい。但し、今年発行されたものであるため、詳細に見るだけの余裕がなく、十分でない点は多々あると思われるが、速報性に免じてご容赦願いたい。(2002年「ローマ・ミサ典礼書規範版 第三版」が発行された半年後に書いた原稿であるという意味)

以下、改訂規範版と三訂規範版の差異について章立てを追って要点を述べることとする。(典礼書の本文に楽譜が加えられることになった新しい規定は1975年頃に出されてと聞く。規範版 第三版が出る前に、本文に楽譜が加えた改訂規範版が出された可能性も考えられ、その時点ですでに変更された箇所もあるかと思われるが、それも含めるものとする)

○ 表紙

「ローマ・ミサ典礼書」の後に「規範版 第三版」と入れられた。

「第二ヴァチカン公会議の決定に基づいてパウロ六世が公布した」のあとに「ヨハネ・パウロ二世が認証した」と入れられた。

○ 教令部分

・「教令」ミサ典礼書の新しい版を公布、規範版と宣言 1970年3月26日 典礼聖省長官
ベンノ・グート枢機卿

・改訂規範版宣言 1975年3月27日

の後に、

・規範版 第三版を発行する宣言 2000年4月20日 が加えられた。

○ 使徒座憲章

第二ヴァチカン公会議の教令に基づいて刷新されたローマ・ミサ典礼書を公布するという内容の「使徒座憲章」 1969年4月3日 教皇パウロ六世 はそのままの形で収録。

○ ローマ・ミサ典礼書の総則

2000年に改訂されたものと差し替えられ、従来341条であったものが、399条となり、58の条項が増えただけでなく、既存の条項の条文も追加、変更、削除が随所に見られる。

詳細は、本誌第36号(2001年12月25日号)「ローマ・ミサ典礼書の総則について」を参照されたい。

2004年5月1日、「ローマ・ミサ典礼書の総則(暫定版)」として、日本語訳がカトリック中央協議会より発行された

○ 典礼暦年に関する一般原則および一般暦

・「教皇パウロ六世の使徒座書簡」1969年2月14日

・「典礼暦年に関する一般原則」61条

・「一般暦」一般暦 1月-12月(個々の内容については省略)

は、そのままの形で収録されている。

・ 移動主日・祝祭日表

記載される期間が1974-2000年から2000-2023年に改められた。

日曜文字、主日の朗読A,B,C年を表に追加、「キリストの聖体の祭日」の月日を削除。

2004年8月15日、「典礼暦年に関する一般原則および一般ローマ暦」として、日本語訳が

カトリック中央協議会より発行された。

○ 典礼季節の固有文

・ 改訂版では歌うための四線譜は巻末にまとめて収録されていたが、**第三版**では典礼文の間にも挿入されるようになった。特に叙唱については改訂版では、一つの叙唱を例にとって平常時と荘厳時の四線譜を載せて、他はその例に従って、ことばを当てはめて歌うようになっていたが、**第三版**では祭日については固有の叙唱の荘厳時に用いる旋律の四線譜が当該箇所に掲載されるようになった。

・ 聖なる過ぎ越しの三日間においては、その特徴が顕著に表れており、復活徹夜祭のミサ中に行われる洗礼式も含めて、本来歌うべきところは、改訂版では巻末にあった四線譜を当該箇所に入れ、文だけの記述は廃止された。

・ 復活節第二主日の典礼日の名称に、「神のいつくしみの主日」と付記された。(この件については「カトリック新聞」2002年10月13日号に報じられている。)

・ **日本の教会でも2003年よりカッコ書きで(神のいつくしみの主日)と入れられるようになった。**

(個々の典礼日ごとにルブリカの変更もあるようだが、内容については省略)

○ ミサの式次第

・ ミサの通常文についても、改訂版では歌うための四線譜は巻末にまとめて収録されていたが、**第三版**では典礼文の間にも挿入されるようになった。しかも、歌うための四線譜がある個所は楽譜の方が先に記載され、改訂版には収録されてなかったキリエ、サンクトゥス、アニュスデイの楽譜、グロリアとクレドの歌い出しも加えられている。

・ 条項数は改訂版145項に対し、**第三版**は146項となったが、単純に1項が追加されたのではなく追加、削除の差し引きの結果で1項増えている。詳細は省略。

・ 四つの奉献文それぞれに、記念唱、栄唱の場所に四線譜が挿入された。

・ 祝福の旋律は、司教の掩祝の四線譜も挿入された。

・ 盛儀の祝福、会衆のための祈願の文例は、内容に多少変更があるが省略。

・ 改定規範版では巻末にあった四つの奉献文の四線譜が繰り上げられて入れられた。改訂規範版では一部分だけであったが、全文となり、第一奉献文では平常時、荘厳時、更には典礼日によって挿入される各コムニカントスや各ハンクイジトゥルにも四線譜が入れられている。第二、第三奉献文の死者のためのミサに挿入される文についても同様である。

・ 改定規範版では「会衆を伴わないミサ」とあったものが「一人の奉仕者だけが参加するミサ」と改められた。条項数は改訂版35項に対し、**第三版**は34項となった。詳細は省略。

・ 付録として和解の奉献文 2種、種々の機会のミサで用いる奉献文 4種が追加された。

○ 聖人固有のミサ 固有文

・ 典礼季節の固有文と同じように、祭日及び一部の主の祝日については固有の叙唱の荘厳時に用いる旋律の四線譜が当該箇所に掲載されるようになった。また、2月2日「主の奉献の

祝日」に行われるローソクの行列の際歌う交唱についても四線譜が掲載されている。

- 聖人共通のミサ 固有文
 - ・ 当該教会献堂記念日のミサのみ固有の叙唱の荘厳時に用いる旋律の四線譜が当該箇所に掲載されている。
- 他の儀式を伴うミサ 固有文
 - ・ 教会献堂式のミサ、祭壇の設置聖別のミサのみ固有の叙唱の荘厳時に用いる旋律の四線譜が当該箇所に掲載されている。
- 種々の機会のミサ 固有文
 - ・ 改定規範版では 46 種であったが、49 種に増えた
- 信心ミサ 固有文
 - ・ 改訂規範版では 16 種であったが、19 種に増えた
- 死者のためのミサ 固有文
 - ・ 改定規範版に記載されていた幼児の葬儀の項目がなくなり 4 項目になった。
- 付録
 - ・ 付録Ⅰ 通常ミサ式次第 四線譜

改訂規範版と異なり、ミサ式次第の多くの部分の四線譜はミサの式次第の典礼文中に挿入されたため、ここでは、そこに記されなかった平常時や他にもある別の旋律、「グロリア」の歌い出しの多種のヴァリエーション、旧訳書と使徒行録、書簡と黙示録、福音それぞれの朗読トーン、共同祈願、祈りへの招き「皆さん、このささげ物を」、拝領前の信仰告白、盛儀の祝福、会衆のための祈願のトーンが収録されている。特筆すべきは第二ヴァチカン公会議以前に廃止されたものと考えていた「主の公現の祭日」の福音の後に歌われる、その年の御復活（典礼暦）の布告（詳細はトム・ヒルテブランド・ヤイゼル著 典礼暦年 上巻 1937 年 中央書院 p.136）の四線譜が収録されたことである。

- ・ 付録Ⅱ 濯水式次第
改訂規範版と同じ
- ・ 付録Ⅲ 聖体奉仕者が聖体を授ける前の派遣 式次第
改訂規範版と同じであるが、ルブリカに多少改訂が加えられた。
- ・ 付録Ⅳ ミサに用いるカリスとパテナの祝別 式次第
新規追加
- ・ 付録Ⅴ 共同祈願の季節別例文
季節区分の数には、変化はないが招きの文、意向の種類、順位や区分を明確に表す見出しと番号に改訂された。
- ・ 付録Ⅵ 子供とともにささげるミサの奉獻文 3 種
新規追加 典礼聖省が「子供とともにささげるミサについての指針」を公表し、子供の集会で使うことができる奉獻文として公認したもの（典礼司教委員会監修 子どもとともにささげるミサ小委員会編集「子どもとともにささげる」1977 年 中央出版社・あかし書房合

同出版の日本語訳が出版されている)

- ・ ミサの準備の祈り

聖アンブロジオの祈り、聖トマス・アキナスの祈り、聖母に対する祈り、意向を示す文改訂規範版と同じ。

- ・ ミサ後の感謝の祈り

聖トマス・アキナスの祈り、自分をささげる祈り、十字架につけられたイエズスに対する祈り、教皇クレメンス 11 世の作とされている祈り、聖母に対する祈り
改訂規範版と同じ。

- 索引

- ・ 聖人祝祭日 アルファベット順索引

- ・ 叙唱の索引

叙唱は数が多く、ミサの式次第中、各種類のミサの固有文中に点在するため、各種類のミサ順に整理して索引が作られている。

- ・ 一般の索引

目次に相当するもの

現在、日本で使われている日本語のミサ典礼書は 1978 年に発行されたものであるが、1975 年発行の「ローマ・ミサ典礼書 改訂規範版」の全訳となっていないためか、正式認可ではなく、暫定認可となっている。そういう状況のところへ今回「ローマ・ミサ典礼書 規範版 第三版」が発行されたので今後の動きが注目される。

以 上

2009 年 2 月 21 日現在までの間、新しいミサ典礼書に基づいた日本語のミサ典礼書を作成する準備を進めているという話はときどき耳にするが、上記セピア色で加筆した件と、2004 年 2 月 18 日以降、「信条」には、それまで洗礼式のときに用いられる短い信仰宣言を用いることをやめ、ミサでは、ニケア・コンスタンチノーブル信条もしくは、使徒信条を用いることにした以外は、目に見えた形では現れていない。